

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成30年 10月～12月実績

平成31年 1月～3月見通し

福井県商工会連合会

1. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
6. 調査対象期間 平成30年10～12月期実績及び平成31年1～3月期見通し
7. 調査時点 平成30年11月15日（木）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

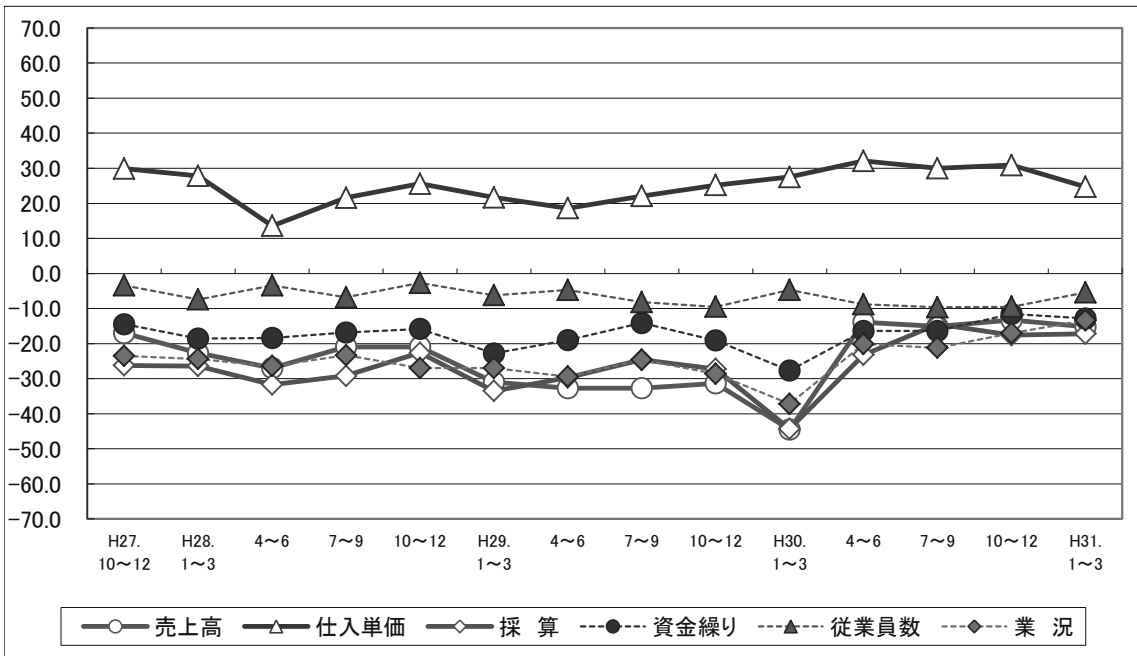
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保勝氏

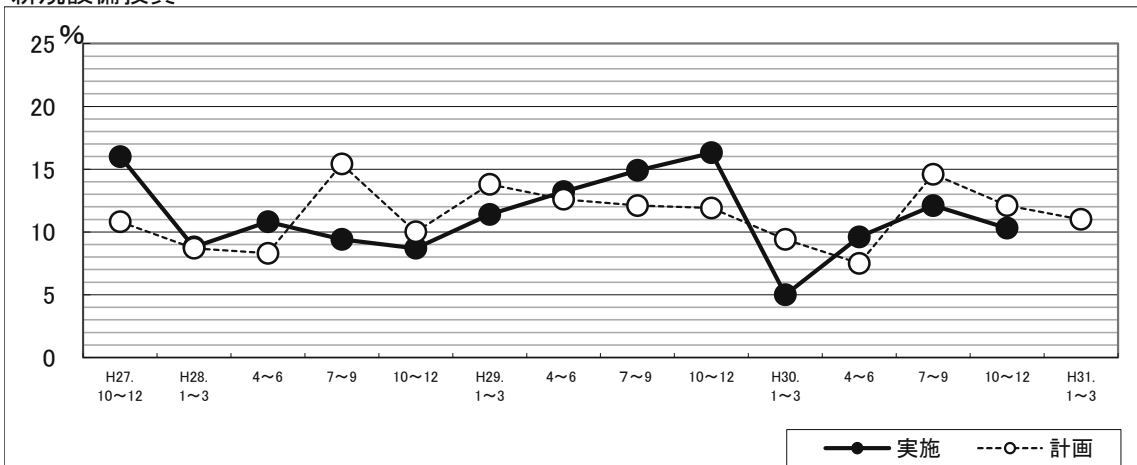
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

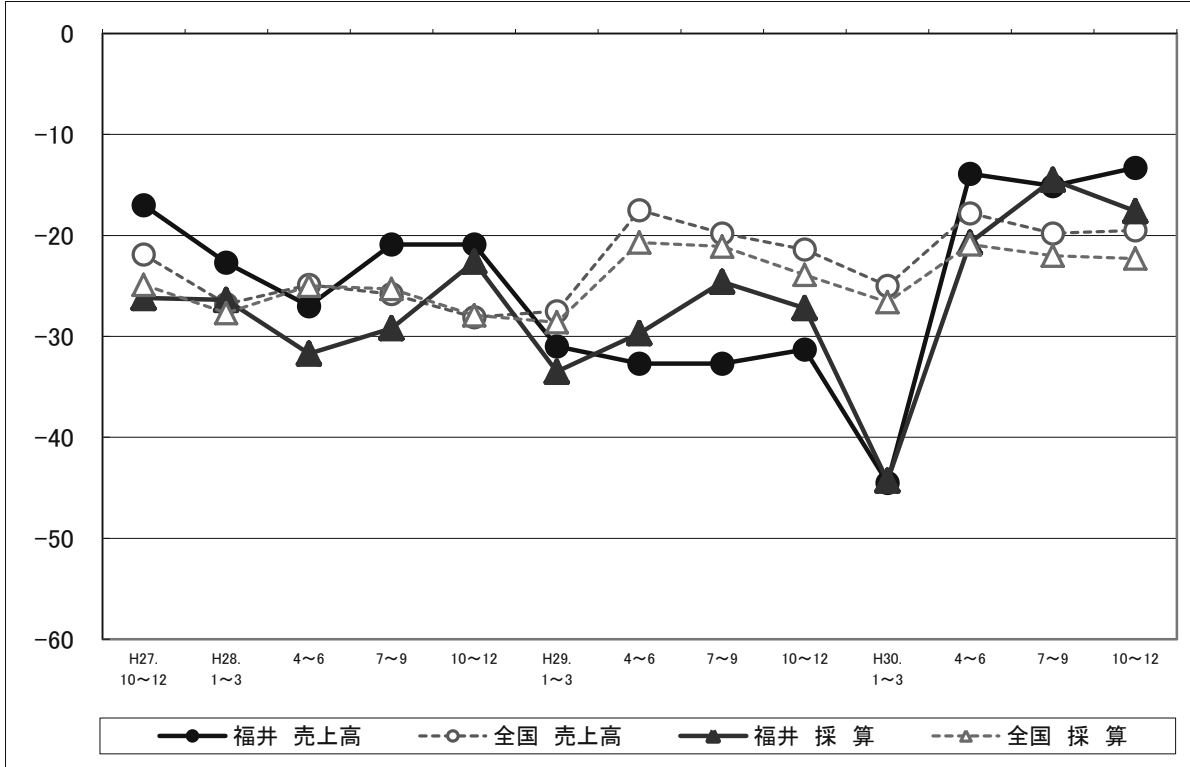
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.10~12	▲ 17.0	29.9	▲ 26.2	▲ 14.5	▲ 3.4	▲ 23.5
H28.1~3	▲ 22.7	27.8	▲ 26.4	▲ 18.6	▲ 7.4	▲ 24.4
4~6	▲ 27.0	13.6	▲ 31.7	▲ 18.4	▲ 3.4	▲ 26.4
7~9	▲ 20.9	21.6	▲ 29.2	▲ 16.8	▲ 6.8	▲ 23.3
10~12	▲ 20.9	25.6	▲ 22.6	▲ 15.8	▲ 2.7	▲ 27.0
H29.1~3	▲ 31.0	21.7	▲ 33.5	▲ 22.8	▲ 6.2	▲ 27.0
4~6	▲ 32.7	18.6	▲ 29.7	▲ 19.0	▲ 4.7	▲ 29.4
7~9	▲ 32.7	22.1	▲ 24.6	▲ 14.1	▲ 8.2	▲ 24.6
10~12	▲ 31.3	25.2	▲ 27.2	▲ 19.1	▲ 9.5	▲ 28.6
H30.1~3	▲ 44.5	27.5	▲ 44.3	▲ 27.7	▲ 4.7	▲ 37.2
4~6	▲ 13.9	32.1	▲ 23.2	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 20.1
7~9	▲ 15.1	30.0	▲ 14.5	▲ 16.4	▲ 9.6	▲ 21.2
10~12	▲ 13.3	30.9	▲ 17.6	▲ 11.5	▲ 9.5	▲ 17.0
H31.1~3	▲ 15.2	24.7	▲ 17.2	▲ 12.8	▲ 5.4	▲ 13.4



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成30年10－12月期の福井県経済を概観すると、需要面として、百貨店・スーパー販売がやや足踏み状態であるものの、ドラッグストア販売が好調となっているほか、コンビニエンスストア、家電販売なども緩やかに拡大しつつある。一方、供給面でも、生産活動で電子部品・デバイスや化学が拡大しているほか、はん用・生産用・業務用機械が緩やかに回復しているなど全体としては緩やかに回復している。

こうした中、今期（H30年10－12月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち4項目で改善、残り2項目で悪化となった。ちなみに、改善した項目は、売上高（前期▲15.1→今期▲13.3）、資金繰り（前期▲16.4→今期▲11.5）、従業員数（前期▲9.6→今期▲9.5）、業況（前期▲21.2→今期▲17.0）。悪化した項目は、仕入単価（逆指数）（前期30.0→今期30.9）、採算（前期▲14.5→今期17.6）であった。今回の調査結果では、悪化を示す項目が2項目にとどまり、県内中小企業の経営環境が、概ね回復基調にあることを裏付ける結果となった。また、先行き（H31年1－3月期）についても、6項目中4項目で改善予測となっている。

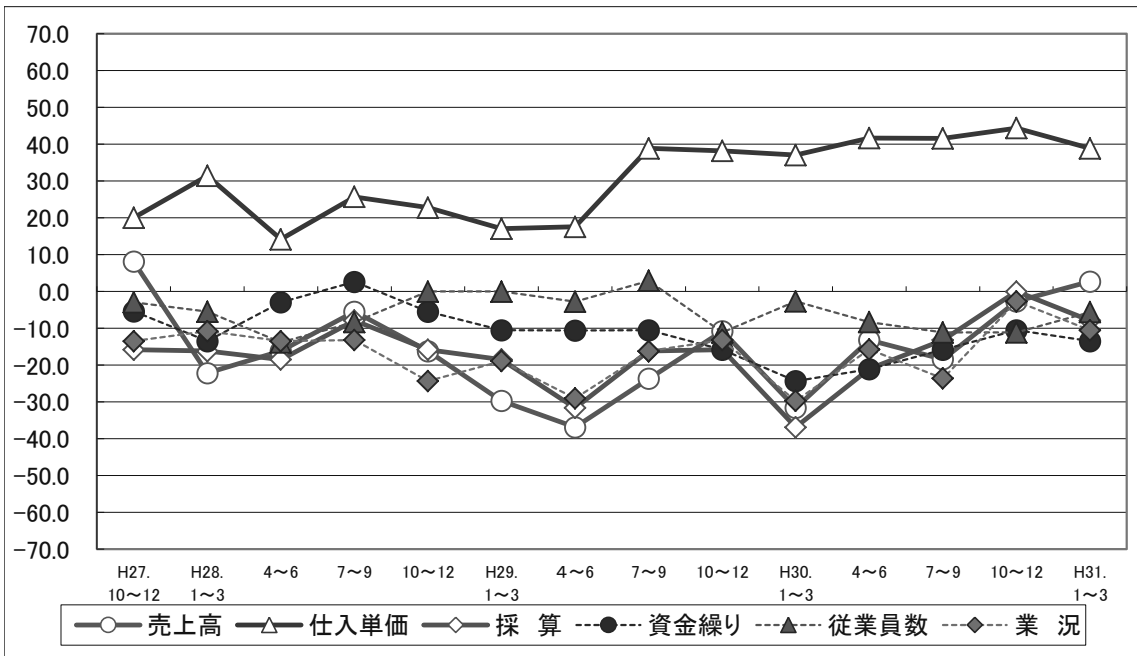
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、売上高は全国、福井県ともに改善。採算については、全国、福井県ともに悪化となった。ただ、両項目ともそのマイナス水準は福井県が全国より小さい。

そのほか、今期の新規設備投資については、何らかの設備投資を計画している企業ウエイト12.1%に対して実施した企業ウエイトが10.3%と、実施が計画を下回っている。また、先行き（H31年1－3月期）については計画が11.0%となっており、投資マインドは横ばいで推移することが予測される。

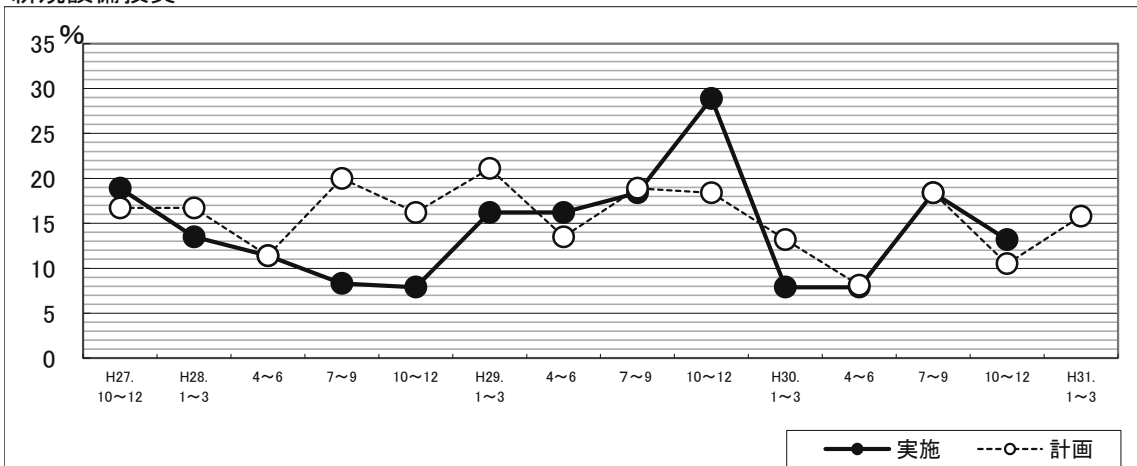
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

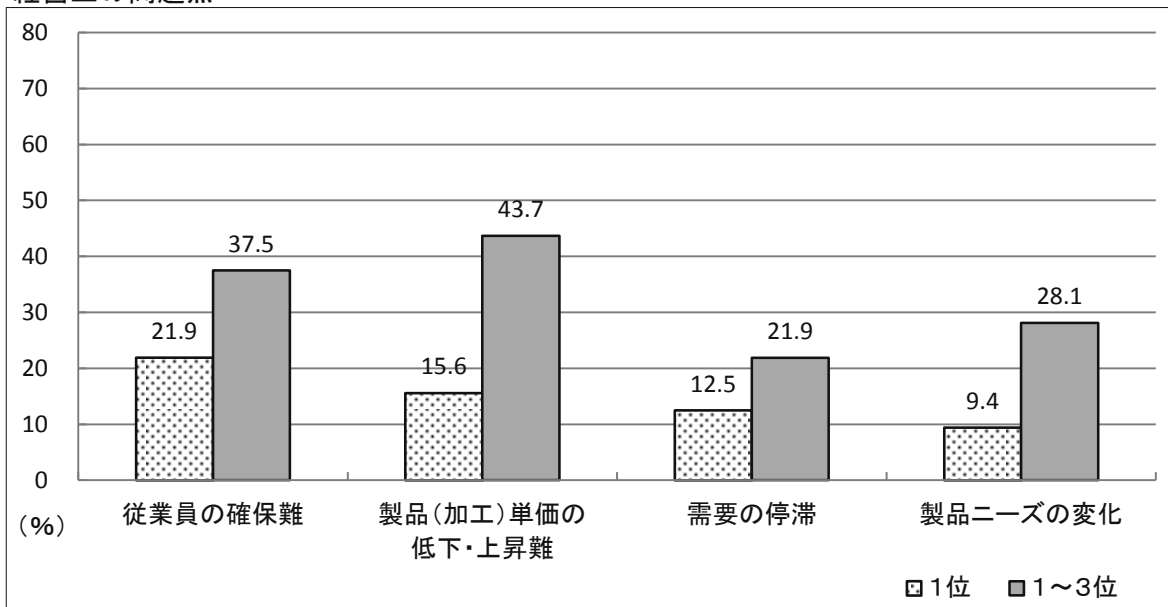
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.10~12	8.1	20.0	▲ 15.8	▲ 5.4	▲ 2.9	▲ 13.5
H28.1~3	▲ 22.2	31.4	▲ 16.2	▲ 13.5	▲ 5.5	▲ 10.8
4~6	▲ 16.2	14.2	▲ 18.5	▲ 2.9	▲ 13.8	▲ 13.5
7~9	▲ 5.5	25.7	▲ 7.9	2.6	▲ 8.3	▲ 13.2
10~12	▲ 16.2	22.8	▲ 15.8	▲ 5.5	0.0	▲ 24.3
H29.1~3	▲ 29.7	17.1	▲ 18.5	▲ 10.5	0.0	▲ 18.9
4~6	▲ 36.9	17.6	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 2.8	▲ 29.0
7~9	▲ 23.7	38.9	▲ 16.2	▲ 10.5	2.9	▲ 16.2
10~12	▲ 10.8	38.2	▲ 15.8	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 13.2
H30.1~3	▲ 31.6	37.1	▲ 36.9	▲ 24.3	▲ 2.7	▲ 29.7
4~6	▲ 13.2	41.7	▲ 21.0	▲ 21.1	▲ 8.3	▲ 15.7
7~9	▲ 18.4	41.6	▲ 13.2	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 23.6
10~12	▲ 2.7	44.4	0.0	▲ 10.5	▲ 11.1	▲ 2.7
H31.1~3	2.7	38.9	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 10.5



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・商談と引き合いは増加しているが、人手と設備面が不足している。長期的にどうかは見通せない。
- ・国体の影響で売上、利益は増加した。今後は現在の商品のプレミアム化や磨き上げを行い、より付加価値の高い商品を開発していく。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、地場産業では引き続き厳しい展開が続いているが、生産キャパに見合う受注高を確保し概ね堅調に推移。特に繊維は非衣料向けが順調となっており、全体でも緩やかに持ち直しつつある。ただ、眼鏡枠では、国内向け、海外からのOEM受注ともに弱い動きとなっている。そのほか、化学は医療用薬剤が持ち直しているほか、プラスチックも建築資材、産業資材ともに持ち直しつつある。主力の電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に、輸送機械などでも自動車変速装置部品を中心に緩やかに拡大している。

こうした中、今期（H30年10～12月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち4項目で改善、1項目で横ばい、残り1項目で悪化となった。ちなみに、改善した項目は、売上高（前期▲18.4→今期▲2.7）、採算（前期▲13.2→今期0.0）、資金繰り（前期▲15.8→今期▲10.5）、業況（前期▲23.6→今期▲2.7）。横ばい項目が、従業員数（前期▲11.1→今期▲11.1）。悪化した項目は、仕入単価（逆指数）（前期41.6→今期44.4）であった。今回の調査結果では、悪化を示す項目が1項目にとどまり、県内製造業の経営環境が、概ね回復基調にあることを裏付ける結果となった。ただ、先行き（H31年1～3月期）については、6項目中3項目で悪化予測となっている。

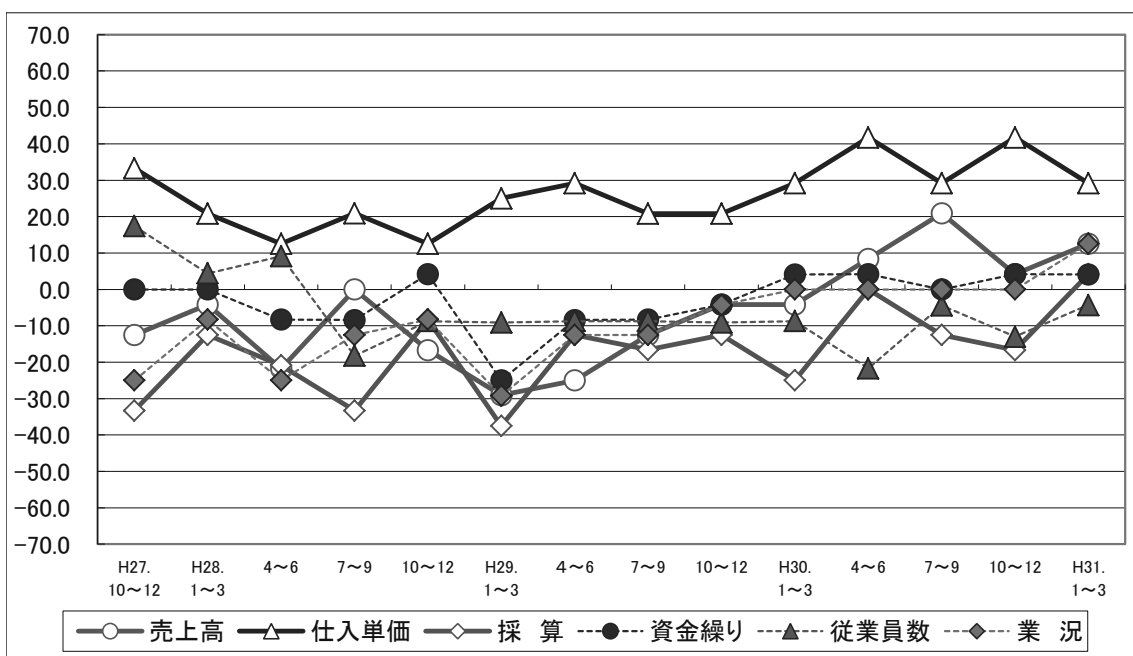
一方、新規設備投資の状況については、計画の10.5%に対し実施が13.2%と順調な投資状況となった。また、先行き（H31年1～3月期）については、何らかの投資を予定する企業が15.8%となり、投資マインドはさらに高まることが予想される。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「従業員の確保難」で最も多く21.9%（1位～3位までに挙げた企業37.5%）を占めた。次いで、「製品単価の低下・上昇難」が15.6%（1位～3位までに挙げた企業43.7%）となっている。そのほか、個別の見解として、「商談と引き合いは増加しているが、人手と設備面が不足している」といった人手不足の問題や、「国体の影響で売上、利益は増加した。今後は現在の商品のプレミアム化や磨き上げを行い、より付加価値の高い商品を開発していく」といった明るい声も寄せられている。

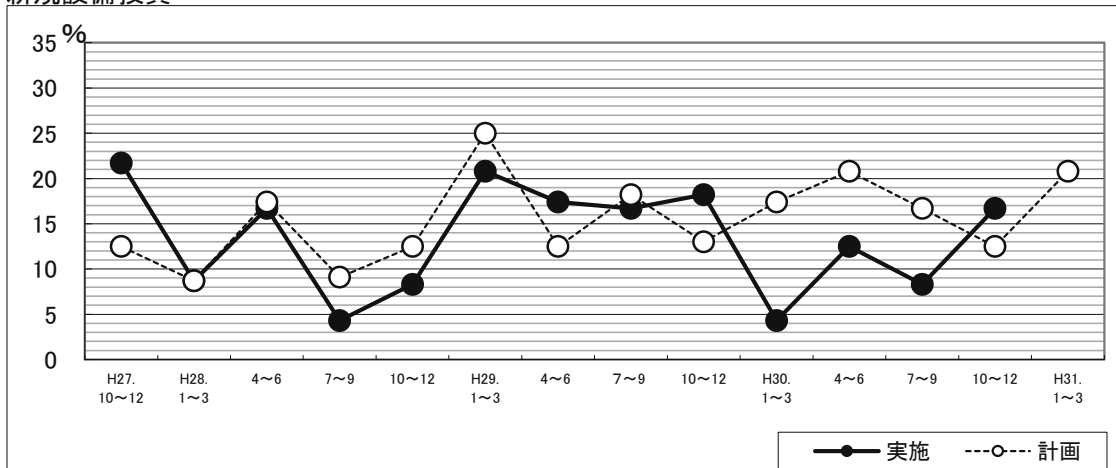
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

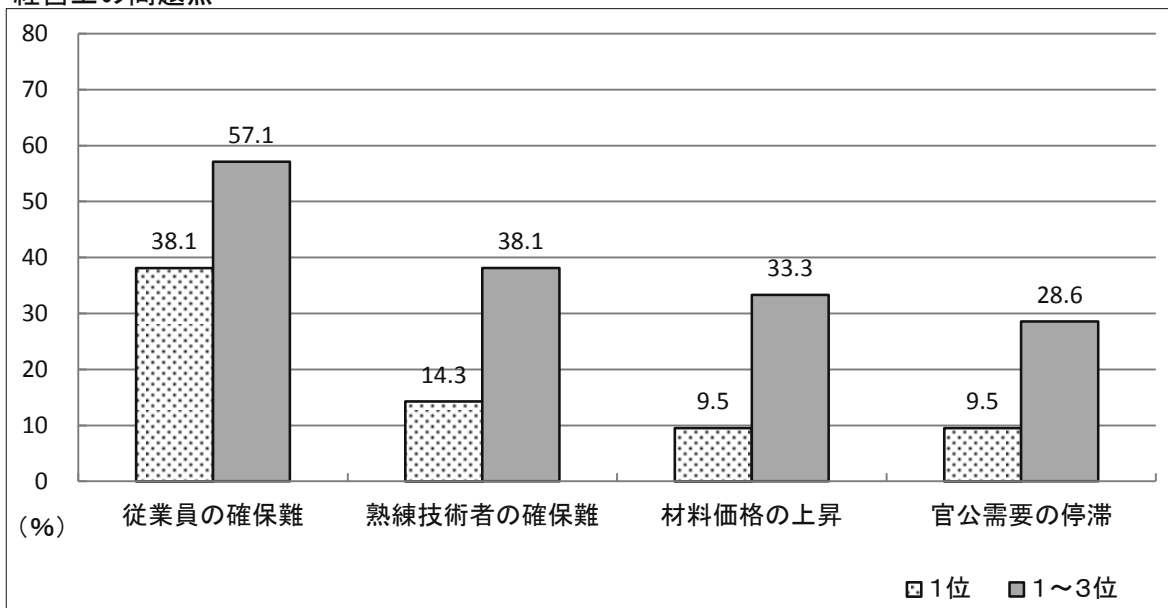
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.10~12	▲ 12.5	33.3	▲ 33.3	0.0	17.4	▲ 25.0
H28.1~3	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	0.0	4.4	▲ 8.3
4~6	▲ 21.8	12.5	▲ 20.9	▲ 8.3	9.1	▲ 25.0
7~9	0.0	20.9	▲ 33.3	▲ 8.4	▲ 18.2	▲ 12.5
10~12	▲ 16.7	12.5	▲ 8.3	4.2	▲ 8.7	▲ 8.3
H29.1~3	▲ 29.1	25.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 9.1	▲ 29.2
4~6	▲ 25.0	29.2	▲ 12.5	▲ 8.4	▲ 8.7	▲ 12.5
7~9	▲ 12.5	20.8	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 12.5
10~12	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 9.1	▲ 4.3
H30.1~3	▲ 4.2	29.2	▲ 25.0	4.1	▲ 8.7	0.0
4~6	8.4	41.7	0.0	4.2	▲ 21.7	0.0
7~9	20.9	29.2	▲ 12.5	0.0	▲ 4.4	0.0
10~12	4.2	41.7	▲ 16.7	4.2	▲ 13.0	0.0
H31.1~3	12.5	29.2	4.2	4.1	▲ 4.3	12.5



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・住宅を中心に引き合いは多いが、自治体からの引き合いは例年より少ない。仕事の波が来年末より激しくなる情報もあり油断できない経営が続きそうだ。
- ・若手従業員の確保難である。

建設業の景況

福井県内における平成30年度（H30年4月－H30年12月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,237億11百万円の前年同期比14.2%増、発注件数は同2,968件の同3.2%減となっている。これを主な発注者別でみると、独立行政法人等の関連工事で465億79百万円の同52.3%増、県関連工事等で379億47百万円の同5.6%増、国家関連工事で81億83百万円の同13.7%増となったものの、主力の市町村関連工事では292億55百万円の同11.8%減となり、前年実績を下回っている。一方、住宅投資については、平成30年4月－11月までの8か月累計で、前年同期比17.5%増の3,190戸であった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比12.8%増の1,859戸、貸家が同30.3%増の1,033戸となっている。

こうした中で今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、業況（前期0.0→今期0.0）で横ばいになったほか、資金繰り（前期0.0→今期4.2）で改善した以外4項目では悪化となった。ちなみに、悪化項目をみると、売上高（前期20.9→今期4.2）、仕入単価（逆指数）（前期29.2→今期41.7）、採算（前期▲12.5→今期▲16.7）、従業員数（前期▲4.4→今期▲13.0）となっている。ただ、売上高のようにプラス水準での低下項目もみられ、総じて建設業の景況感は他の業種に比べ堅調といえる。また、先行き（H31年1－3月期）については、5項目で改善予測となっている。

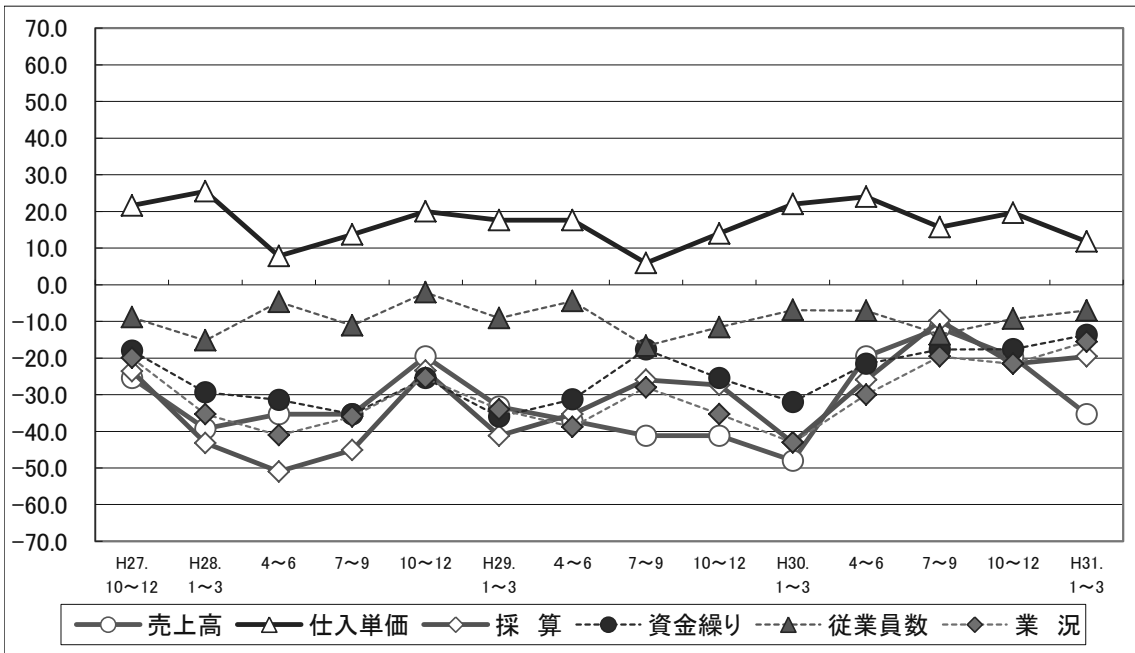
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業12.5%に対し実施した企業が16.7%と順調に推移。また、先行き（H31年1－3月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が20.8%となっており、投資マインドは明るい。

最後に、経営上の問題点については、「従業員の確保難」が1位に挙げた企業ウエイト38.1%、1位～3位までに挙げた企業57.1%を占め、最多となった。個別の見解としては、「住宅を中心に引き合いは多いが、自治体からの引き合いは例年より少ない」、「仕事の波が来年末より激しくなる情報もあり油断できない」といった厳しい声も聞かれた。

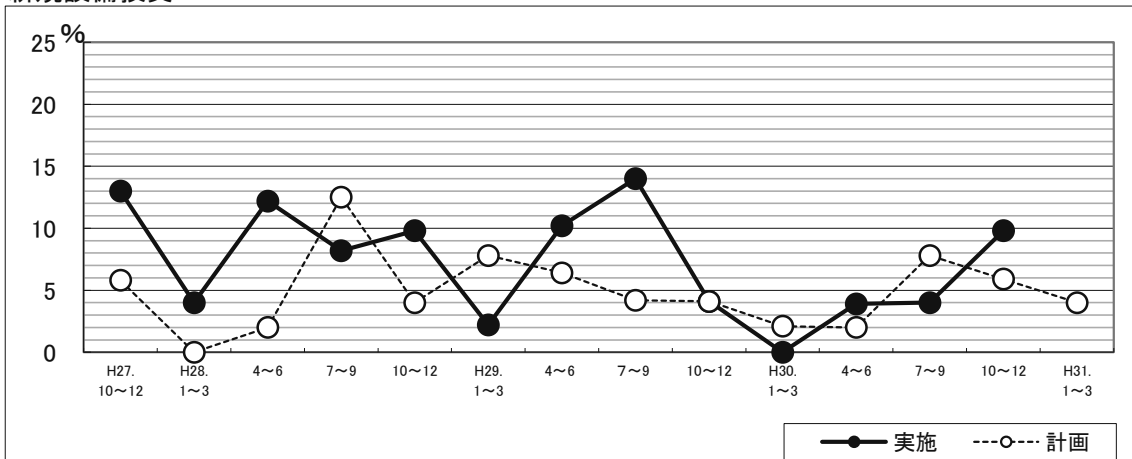
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

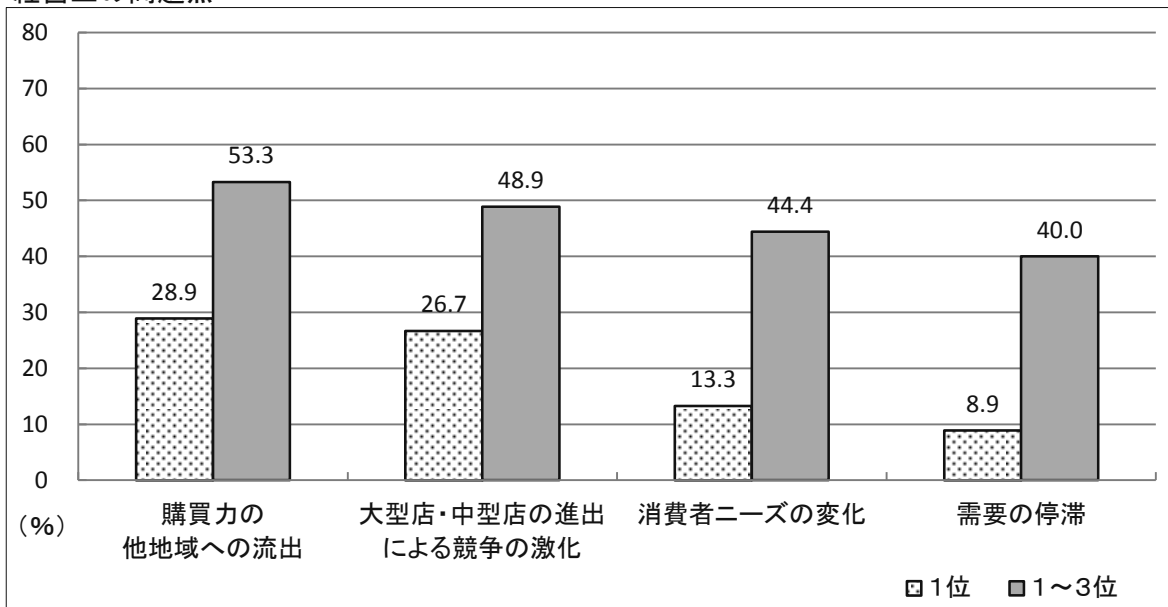
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.10~12	▲ 25.5	21.6	▲ 23.6	▲ 18.0	▲ 8.9	▲ 20.0
H28.1~3	▲ 39.3	25.5	▲ 43.2	▲ 29.4	▲ 15.2	▲ 35.3
4~6	▲ 35.3	7.8	▲ 51.0	▲ 31.4	▲ 4.7	▲ 41.1
7~9	▲ 35.3	13.7	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 11.1	▲ 36.0
10~12	▲ 19.6	20.0	▲ 23.5	▲ 25.5	▲ 2.1	▲ 25.5
H29.1~3	▲ 33.3	17.6	▲ 41.2	▲ 36.0	▲ 9.1	▲ 34.0
4~6	▲ 37.2	17.6	▲ 35.3	▲ 31.3	▲ 4.5	▲ 38.8
7~9	▲ 41.2	5.9	▲ 26.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 28.0
10~12	▲ 41.2	14.0	▲ 27.4	▲ 25.5	▲ 11.6	▲ 35.3
H30.1~3	▲ 48.0	22.0	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 6.9	▲ 43.1
4~6	▲ 19.6	24.0	▲ 26.0	▲ 21.6	▲ 7.1	▲ 30.0
7~9	▲ 11.8	15.7	▲ 9.8	▲ 17.7	▲ 13.6	▲ 19.6
10~12	▲ 19.7	19.6	▲ 21.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 21.6
H31.1~3	▲ 35.3	11.8	▲ 19.6	▲ 13.7	▲ 7.0	▲ 15.6



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・人件費の増加と人材不足が今後の経営にとって極めて深刻である。また、同業者との客の奪い合いは必死である。
- ・頑張ってはいるが景気の後退を感じる。高額商品・高品質の商品は動きが鈍い。

小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、百貨店・スーパー販売がややスローダウンペースながら、ドラッグストア販売などは好調を持続、その他コンビニエンスストア、家電販売なども白物家電などが堅調であること。さらに、新車販売も復調しつつあることなどから、全体では緩やかに持ち直している。参考までに、近畿経済産業局が公表する10月の大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）を見ると、前年同月比0.2%減の5,863百万円となっているが、マイナス幅は軽微でほぼ横ばいとみるべきであろう。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中、資金繰り、従業員数で改善となった以外、4項目で悪化となった。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高（前期▲11.8→今期▲19.7）、仕入単価（逆指数）（前期15.7→今期19.6）、採算（前期▲9.8→今期▲21.6）、資金繰り（前期▲17.7→今期▲17.6）、従業員数（前期▲13.6→今期▲9.3）、業況（前期▲19.6→今期▲21.6）となっている。また、先行き（H31年1-3月期）については、売上高以外5項目で改善となり、景況感の明るさが戻っている。

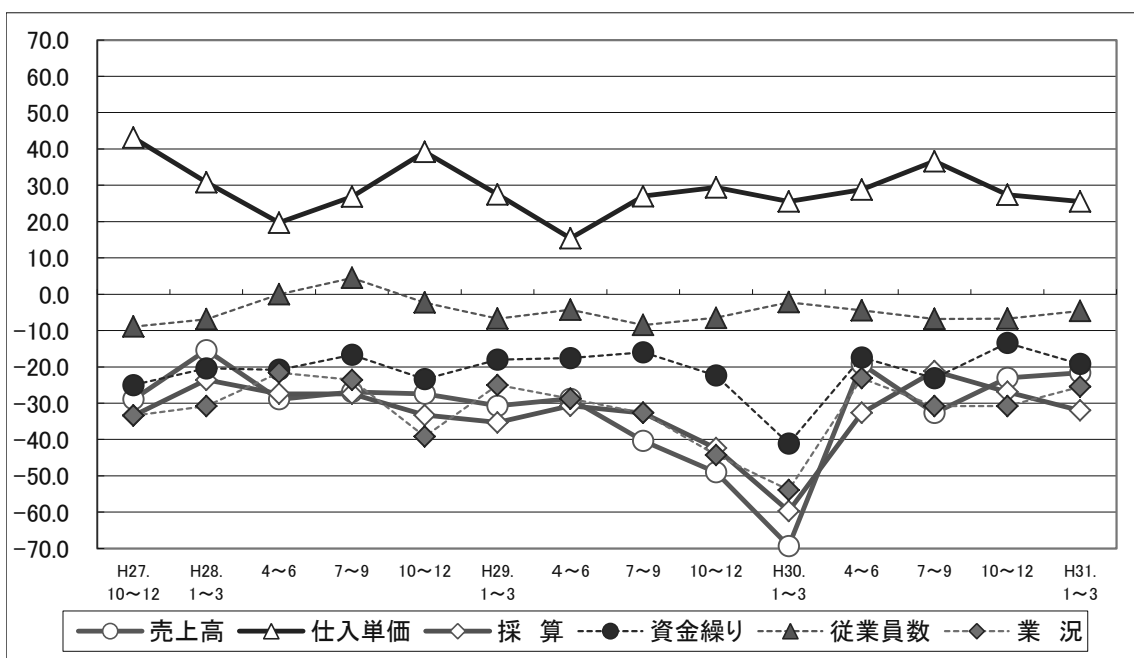
一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の5.9%に対し実施は9.8%となり、低調ながらやや明るさが戻っている。先行き（H31年1-3月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが4.0%にとどまり、投資マインドは依然低い。

最後に、経営上の問題点については、「購買力の他地域への流出」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト28.9%、1位～3位までに挙げた企業53.3%となった。また、個別の見解としては、「人件費の増加と人材不足が今後の経営にとって極めて深刻である。また、同業者との客の奪い合いは必死である」、「頑張ってはいるが景気の後退を感じる」、「高額商品・高品質の商品は動きが鈍い」など悲観的な声が多く聞かれた。

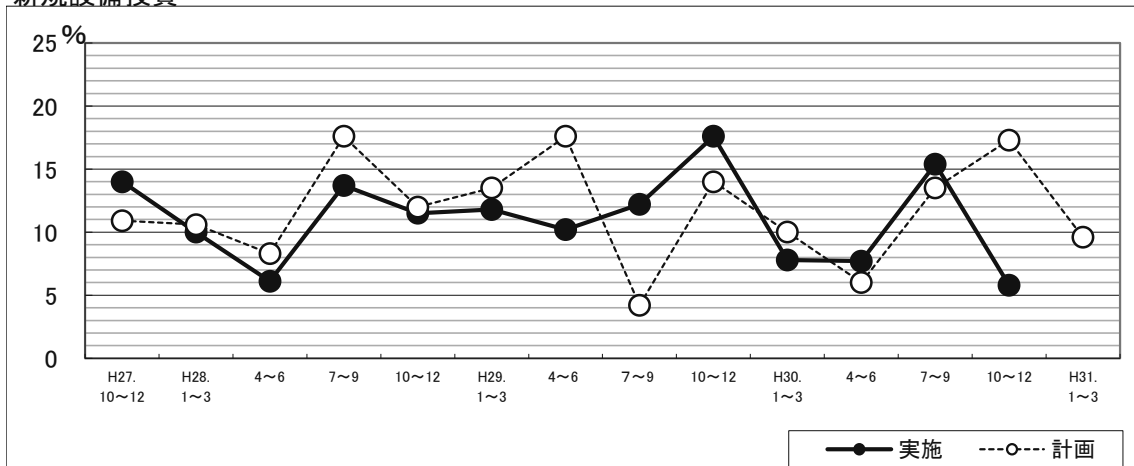
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

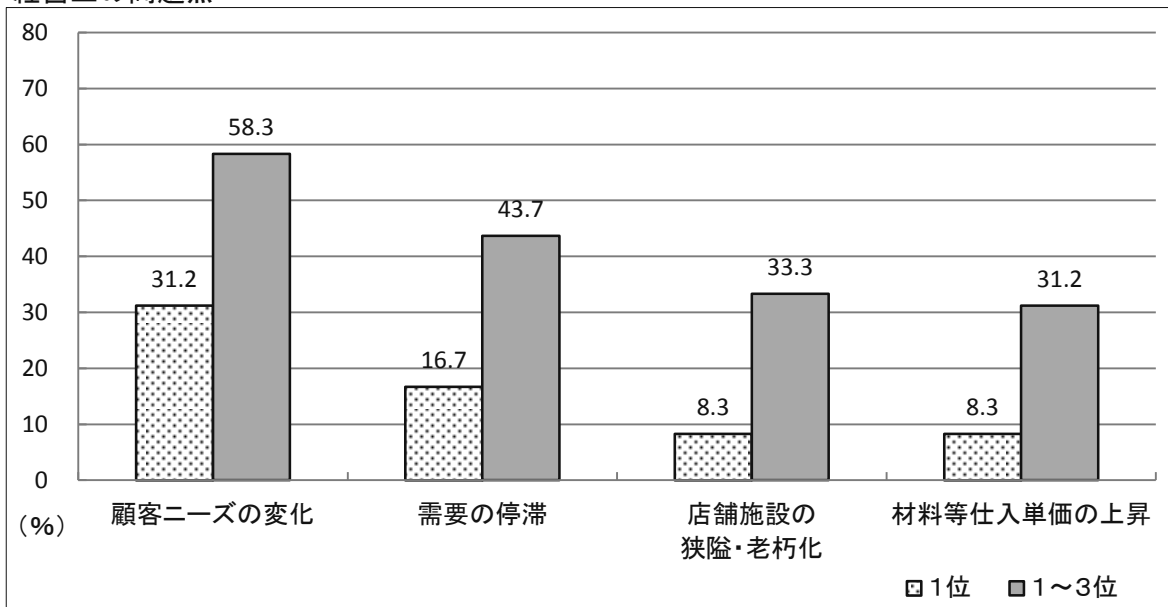
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.10~12	▲ 28.9	43.1	▲ 33.4	▲ 25.0	▲ 8.9	▲ 33.4
H28.1~3	▲ 15.4	30.8	▲ 23.6	▲ 20.4	▲ 6.9	▲ 30.8
4~6	▲ 28.9	19.7	▲ 27.4	▲ 20.8	0.0	▲ 21.6
7~9	▲ 26.9	26.9	▲ 27.4	▲ 16.7	4.5	▲ 23.6
10~12	▲ 27.4	39.2	▲ 33.3	▲ 23.4	▲ 2.3	▲ 39.2
H29.1~3	▲ 30.7	27.5	▲ 35.3	▲ 18.0	▲ 6.7	▲ 25.0
4~6	▲ 28.8	15.4	▲ 30.7	▲ 17.6	▲ 4.3	▲ 28.8
7~9	▲ 40.4	27.0	▲ 32.7	▲ 16.0	▲ 8.5	▲ 32.7
10~12	▲ 49.0	29.4	▲ 42.4	▲ 22.4	▲ 6.5	▲ 44.3
H30.1~3	▲ 69.3	25.5	▲ 59.7	▲ 41.1	▲ 2.2	▲ 53.9
4~6	▲ 19.2	28.8	▲ 32.7	▲ 17.4	▲ 4.4	▲ 23.1
7~9	▲ 32.7	36.6	▲ 21.2	▲ 23.1	▲ 6.8	▲ 30.8
10~12	▲ 23.0	27.4	▲ 26.9	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 30.8
H31.1~3	▲ 21.6	25.5	▲ 32.0	▲ 19.2	▲ 4.6	▲ 25.5



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・今期の様な状況が長く続けば設備投資のための借り入れもできそうだが、一過性であれば難しい。必要設備の老朽化は厳しく検査されるので維持が難しくなる。
- ・国体の影響で売上げが増えたため設備投資に資金が回せる。来年予定の消費増税どのように影響するのか不安。

サービス業の景況






総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国におけるH30年10月のサービス関連産業売上高は31.9兆円で前年同月比3.1%増と、24か月連続の増加となった。産業大分類別の動向をみると、増加した産業は「サービス業（他に分類されないもの）」（3.4兆円、前年同月比5.7%増）、「運輸業、郵便業」（6.0兆円、同5.3%増）など8産業。減少した産業は「生活関連サービス業、娯楽業」（4.0兆円、同2.4%減）のみであった。また、サービス産業の従業者数は、3,069万人。前年同月比0.6%の増加となっており、増加した産業は「教育、学習支援業」（105万人、前年同月比2.9%増）、「情報通信業」（195万人、同2.0%増）など6産業。減少した産業は「生活関連サービス業、娯楽業」（263万人、同0.4%減）、「学術研究、専門・技術サービス業」（180万人、同0.3%減）など3産業となっている。





























































こうした中、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中、4項目で改善、1項目で横ばい、1項目で低下となっている。ちなみに、項目別では、売上高（前期▲32.7→今期▲23.0）、仕入単価（逆指数）（前期36.6→今期27.4）、採算（前期▲21.2→今期▲26.9）、資金繰り（前期▲23.1→今期▲13.4）、従業員数（前期▲6.8→今期▲6.7）、業況（前期▲30.8→今期▲30.8）となっている。こうした状況から、県内のサービス業では、引き続き全国の動きとは異なりかなり厳しい業況にあるほか、その悪化の状況は他の業種と比較し極めて深刻であることがわかる。ただ、先行き（H31年1-3月期）については、採算、資金繰りの2項目のみ悪化予測となっており、幾分の改善も期待される。

一方、新規設備投資については、計画17.3%に対し実施が5.8%と、実施が計画を下回り厳しい結果となった。先行き（H31年1-3月期）についても9.6%と、投資マインドには厳しいものがある。

最後に、経営上の問題点については、「顧客ニーズ変化」（1位に挙げた企業ウエイト31.2%、1位~3位までに挙げた企業58.3%）への指摘が最も多い。また、個別の見解としては、「今期の様な状況が長く続けば設備投資のための借り入れもできそうだが、一過性であれば難しい」、「必要設備の老朽化は厳しく検査されるので維持が難しくなる」などの厳しい声が聞かれた。

全国・福井景気動向 平成30年10月～12月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 19.5	36.4	▲ 22.3	▲ 14.4	▲ 4.3	▲ 19.9
	製造業						
	DI値	▲ 10.9	44.5	▲ 14.6	▲ 10.8	▲ 1.0	▲ 11.3
	建設業						
	DI値	▲ 4.0	42.3	▲ 9.9	▲ 3.1	▲ 5.2	▲ 3.3
	小売業						
	DI値	▲ 32.2	29.2	▲ 32.5	▲ 22.6	▲ 5.3	▲ 32.9
	サービス業						
DI値	▲ 21.1	35.1	▲ 23.9	▲ 15.0	▲ 5.0	▲ 22.1	
福井	全体						
	DI値	▲ 13.3	30.9	▲ 17.6	▲ 11.5	▲ 9.5	▲ 17.0
	製造業						
	DI値	▲ 2.7	44.4	0.0	▲ 10.5	▲ 11.1	▲ 2.7
	建設業						
	DI値	4.2	41.7	▲ 16.7	4.2	▲ 13.0	0.0
	小売業						
	DI値	▲ 19.7	19.6	▲ 21.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 21.6
サービス業							
DI値	▲ 23.0	27.4	▲ 26.9	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 30.8	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

